

期間： 平成23年3月1日 から 平成23年3月31日

(保健福祉局保健所医療政策課)

1. 相談件数

①相談者の性別

女 性	男 性	不 明	合 計
113	19	0	132

②相談経路

電 話	救急隊	センター 来院	警 察	その他	不 明	合 計
108	10	1	0	13	0	132

③相談者の年齢

20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	不 明	合 計
8	35	29	8	2	1	0	1	48	132

④相談者の所在地

市内	市外	不 明	合 計
95	24	13	132

2. 主な相談内容

相談内容	件 数
腹痛・腹部の異常	45
性器出血	27
妊娠中の発熱・嘔吐など	4
薬の服用	5
生理痛・生理時の異常	7
避妊対応	18
外陰部の痛み・痒み・腫れ	3
強姦	0
その他の婦人科系疾患	1
乳幼児の疾患・異常	0
避妊具・生理用品等の使用法	0
産婦人科等医療機関の紹介依頼	8
その他	13
不明	1
合 計	132

3. 相談対応結果

相談対応結果		件数	
医療機関の 受診を勧奨	かかりつけ医	明朝以降の受診勧奨	15
		早急な電話相談・受診を勧奨	28
	他の医療機関	明朝以降の受診勧奨	27
		早急な電話相談・受診を勧奨	7
	夜間急病センター	来院	10
		来院せず	0
二次救急医療機関を受診	電話相談後に受診を手配	7	
	急病センター来院後に受診を手配	0	
	救急隊の要請で手配	1	
三次救急医療機関を受診		1	
電話相談で終了		29	
その他		7	
不明		0	
合 計		132	

資料 2 産婦人科相談問診表

No. _____

産婦人科電話相談 問診票 (ver. 081208) (1 / 3)

(1) 相談対応日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (2) 相談対応開始時間： _____ 時 _____ 分

■相談者情報：

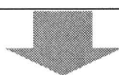
(4)フリガナ		(5)年齢	満 _____ 歳
(3)氏名		(6)性別	<input type="checkbox"/> 1. 女 <input type="checkbox"/> 2. 男 <input type="checkbox"/> 3. 不明
(7)住所	① _____ 市 ② _____ 区	(8)電話	
	③ _____		<input type="checkbox"/> 本人確認 <input type="checkbox"/> 着信履歴
(9)経路	<input type="checkbox"/> 1. 本人・知人からの電話 <input type="checkbox"/> 2. 救急隊 <input type="checkbox"/> 3. センター来院 <input type="checkbox"/> 4. 警察 <input type="checkbox"/> 5. その他 <input type="checkbox"/> 6. 不明		
(10)備考			

■相談内容等：

<p>【問1】今、一番困っていることは何ですか？（主訴・相談内容）【選択欄→(11)、記述欄→(12)】</p>	
<p> <input type="checkbox"/>1. 腹痛・腹部の異常 <input type="checkbox"/>2. 性器出血 <input type="checkbox"/>3. 妊娠中の発熱・嘔吐など <input type="checkbox"/>4. 薬の服用 <input type="checkbox"/>5. 生理痛・生理時の異常 <input type="checkbox"/>6. 避妊対応 <input type="checkbox"/>7. 外陰部の痛み・痒み・腫れ <input type="checkbox"/>8. 強姦 <input type="checkbox"/>9. その他の婦人科系疾患 <small>(乳輪痛、乳房腫脹、子宮脱、乳腺炎、性病)</small> <input type="checkbox"/>10. 乳幼児の疾患・異常 <input type="checkbox"/>11. 避妊具・生理用品等の使用法 <input type="checkbox"/>12. 産婦人科等医療機関の紹介依頼 <input type="checkbox"/>13. その他 <input type="checkbox"/>14. 不明 </p>	<p>(12)</p>

■妊娠の有無：【必要事項を(12)に記述（追記）】

[問2] 妊娠の診断は受けていますか？	
<input type="checkbox"/> はい →	出産予定日はわかりますか？：□平成 年 月 日 <input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> いいえ（不明）	（備考）
[問3] かかりつけの産婦人科はありますか？	
<input type="checkbox"/> はい →	医療機関名：
<input type="checkbox"/> いいえ（不明）	（備考）
[問4] 最後の生理は、いつ始まったか覚えていますか？	
<input type="checkbox"/> はい →	始まった年月日：平成 年 月 日から 日間
<input type="checkbox"/> いいえ（不明）	（備考）
[問5] 最後の生理は、いつもと同じ量と持続日数でしたか？	
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	（備考）
<input type="checkbox"/> 不明	



(13) 診断結果：

妊娠（+） →	<input type="checkbox"/> 1. かかりつけ医診断にて（+）（かかりつけ医あり）
	<input type="checkbox"/> 2. 相談者による妊娠検査薬の判定結果（+）（未受診）
	<input type="checkbox"/> 3. 問診により（+）と判断（未受診）
妊娠（-） →	<input type="checkbox"/> 4. 問診により（-）と判断
<input type="checkbox"/> 5. 妊娠に関する相談ではなかった	<input type="checkbox"/> 6. 不明

■保険の有無、相談電話：

[問6] 保険証は持っていますか？(14)	
持っている →	<input type="checkbox"/> 1. 社保 <input type="checkbox"/> 2. 国保 <input type="checkbox"/> 3. 資格証明書 <input type="checkbox"/> 4. 持っているが不明
<input type="checkbox"/> 5. 持っていない	<input type="checkbox"/> 6. 不明 <input type="checkbox"/> 7. 共済保険 <input type="checkbox"/> 8. 生活保護 <input type="checkbox"/> 9. 該当なし
[問7] 相談電話をどこで知りましたか？【選択欄→(15)、記述欄→(16)】	
<input type="checkbox"/> 1. 新聞	<input type="checkbox"/> 2. インターネット (16)
<input type="checkbox"/> 3. 夜間急病センターから紹介	
<input type="checkbox"/> 4. 医療機関等から紹介	
<input type="checkbox"/> 5. 消防・119番から紹介	
<input type="checkbox"/> 6. 知人の紹介	
<input type="checkbox"/> 7. 104番号案内で聞いて	
<input type="checkbox"/> 8. チラシ	<input type="checkbox"/> 9. ポスター
<input type="checkbox"/> 10. その他→（具体的に）	
<input type="checkbox"/> 11. 不明	

■相談後の対応等：

電話相談後の対応【選択欄→(17)、病院名称→(18)、記述欄→(19)】		
医療機関受診勧奨 → (種類)	かかりつけ医 → (対応)	<input type="checkbox"/> 1. 明朝以降の受診勧奨 <input type="checkbox"/> 2. 早急な電話相談を勧奨
	他の医療機関 → (対応)	<input type="checkbox"/> 3. 明朝以降の受診勧奨 <input type="checkbox"/> 4. 早急な電話相談を勧奨
	夜間急病センター → (結果)	<input type="checkbox"/> 5. 来院 <input type="checkbox"/> 6. 来院せず
二次救急医療機関受診 → (対応)	<input type="checkbox"/> 7. 電話相談後受診勧奨 →	(18) 病院名称：
	<input type="checkbox"/> 8. センター来所後受診案内→	
	<input type="checkbox"/> 9. 救急隊要請 →	
<input type="checkbox"/> 10. 三次救急医療機関受診 →		
<input type="checkbox"/> 11. 電話相談で終了 <input type="checkbox"/> 12. その他 <input type="checkbox"/> 13. 不明		
(19)		
(20) 相談者の満足度	<input type="checkbox"/> 1. 満足 <input type="checkbox"/> 2. やや満足 <input type="checkbox"/> 3. やや不満 <input type="checkbox"/> 4. 不満 <input type="checkbox"/> 5. 不明	
(21) その他特記事項		
(22) 転帰		

(23) 相談対応時間：約 分 (24) 対応相談員氏名：

医療機関様 患者様・転帰照会FAX返信用紙

産婦人科医療機関 転帰記載欄

病院 担当医 先生

当番医療機関記入欄

医療機関記入欄	1. 診断名 _____ <input type="checkbox"/> 妊婦の場合 (妊娠 _____ 週) <input type="checkbox"/> 母子手帳交付済みの妊婦 <input type="checkbox"/> 母子手帳未交付の妊婦 (未受診) <input type="checkbox"/> 非妊婦の場合 (_____)
	2. 対応内容 <input type="checkbox"/> 来院せず <input type="checkbox"/> 受診後帰宅 <input type="checkbox"/> 緊急入院 <input type="checkbox"/> 緊急手術 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
	3. 特記事項があれば記載をお願いします <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">[_____]</div>

明日 14 時までFAX011-622-3298 に転帰記載のうえ返信お願い致します

産婦人科救急オペレーター 問診内容

相談対応日:平成 年 月 日 時 分 相談対応 _____ が担当しています
 日頃、産婦人科救急当番のご対応ありがとうございます。
 _____ 時 _____ 分頃に貴院に御連絡しました相談者様です。よろしくお願い致します。

情報オペレーター記入欄

経路	<input type="checkbox"/> 本人・知人からの電話 <input type="checkbox"/> 救急隊 <input type="checkbox"/> センター来院者 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> その他
産科関連情報	
共通情報	最終月経:平成 年 月 日 ~ 日、日間 _____ (その前の月経 月 日 ~ 日間) かかりつけ医 無 ・ 有 (病院名 _____) (最終受診日 月 日) 合併症・既往歴 : 無 ・ 有 妊娠: 無 ・ 不明
産科情報	妊娠 有 出産予定日:まだ決まっていない (最終月経より、エコーより、妊娠 _____ 週 _____ 日相当) 既往分娩: 初産 ・ 経産 (_____ 回) 分娩情報 胎位: 頭位 ・ 骨盤位 ・ 不明 陣痛: 無 ・ 有 (不規則 ・ _____ 分間隔 弱 ・ 強) 出血: 無 ・ 有 (少 ・ 多) 破水: 無 ・ 有 (破水時間 月 日 : _____) (羊水の性状 : _____)
主訴・相談内容	

到着予定時刻 _____

交通手段 救急車 ・ 自家用車 ・ その他(_____)

【調査報告3】札幌圏における未受診妊婦に関する調査研究

1 はじめに

近年、増加傾向にある未受診妊婦の分娩、いわゆる飛び込み出産においては、母児ともに極めてハイリスクといわれている。受け入れ施設や医療従事者にとっても経過の不明な妊産婦を受け入れることは過大な負担がかかると言われている。

また、医療費の未払いや育児放棄・虐待などとの関連性も指摘されており社会問題となっている。調査2年目となった札幌市では昨年度41件あった未受診が本年度は17件まで減少していたが、いまだ未受診妊婦がなくなるのが現状である。

年間出生数約14,000人余りある札幌市において、どの程度の未受診妊婦が高次医療機関へ搬送され、どのような傾向にあるのかを、今研究において明らかにし、今後の医療のあり方への示唆とする。

2 調査結果

(1) 調査期間

平成21年4月1日～平成22年3月31日

計17件（電話相談件数1,712件中12件、産婦人科救急相談電話対応外5件）

(2) 未受診の定義

今回の調査においては、未受診妊婦を下記の定義として調査した。

- ①妊婦健診を受けておらず、搬送または受診後分娩となった妊産婦。
- ②妊婦健診を受けておらず、分娩後に搬送された褥婦。
- ③妊婦健診を受けているが、札幌市の病院を受診されていない妊産婦。

(3) 調査対象

未受診妊婦の総数17件の内訳は下記のとおりである。

- ①札幌市産婦人科救急電話相談に相談があった未受診妊婦。(10件)
- ②札幌市産婦人科救急電話相談を通さず搬送または受診された未受診妊婦。(5件)
- ③札幌市内の産婦人科で妊婦検診を受けていない妊婦を札幌市での未受診妊婦と定義し、札幌市内産婦人科の二次・三次医療機関に搬送した事例。(2件)

(4) 調査方法

(2) の未受診妊婦 例について、未受診ヒアリングシートを用い、下記の聞き取り調査をおこなった。

- ①未受診の妊産褥婦を受け入れた札幌市内の二次・三次医療機関へのヒアリング調査（別添資料 1）
- ②未受診の妊産褥婦を受け入れた札幌市内の二次・三次医療機関から継続フォローを依頼された市内保健センターへのヒアリング調査（別添資料 2）
- ③電話相談から医療機関へ搬送された未受診の妊産褥婦のうち連絡先の確認がされている対象者に電話での直接ヒアリング調査（別添資料 3）

3 未受診妊婦に関する詳細分析結果（搬送病院へのヒアリング）

(1) 未受診妊婦の背景

①未受診妊婦の住所（全体）

札幌市内が 10 件（67%）、札幌市外 1 件（6%）、札幌圏外・北海道外が 5 件（29%）、住所不定が 1 件（6%）であった（図 1）。

また、居住地域の詳細については図 2 に示した。

札幌市内では、中央区、豊平区、南区が各 2 件、29% 東区、西区、北区、白石区が各 1 件であった。

図 1 未受診妊婦の居住地域

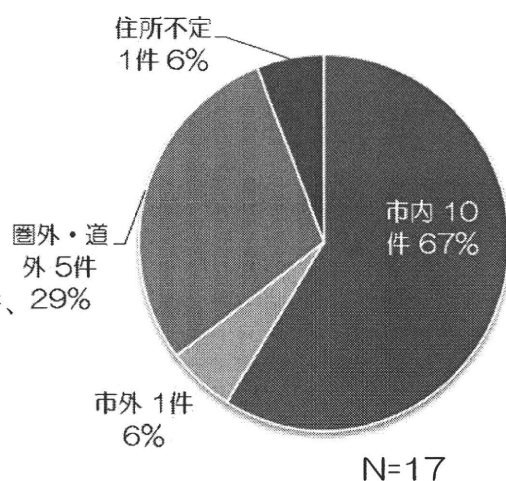


図 2 未受診妊婦の住所

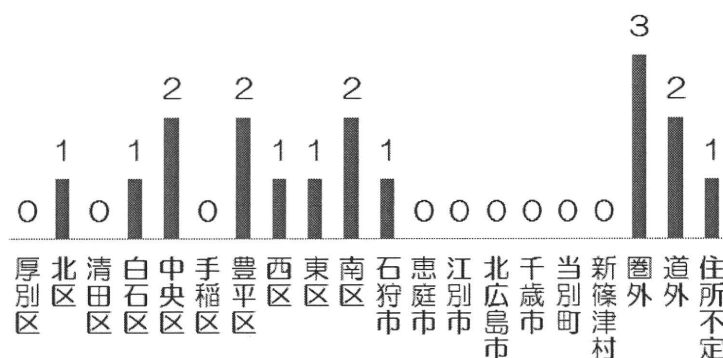
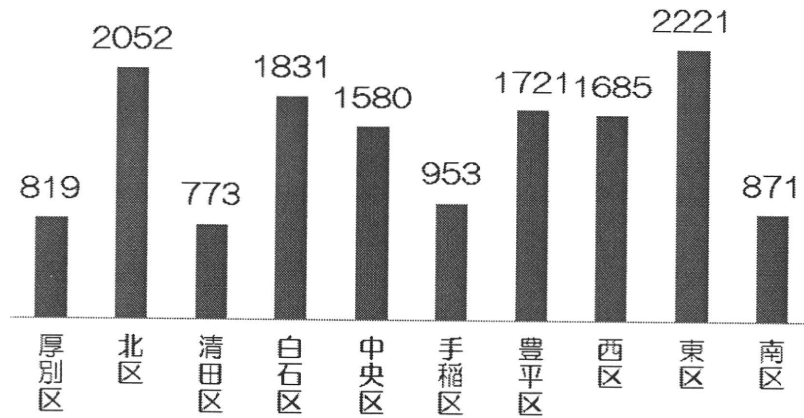


図3 札幌市内居住地域別出産数

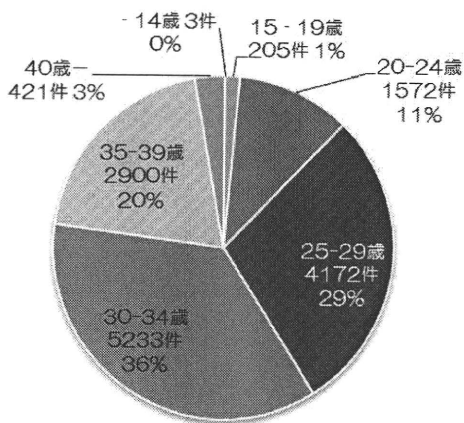


※札幌市衛生年報 平成21年統計 N=14,506

②出産年齢について

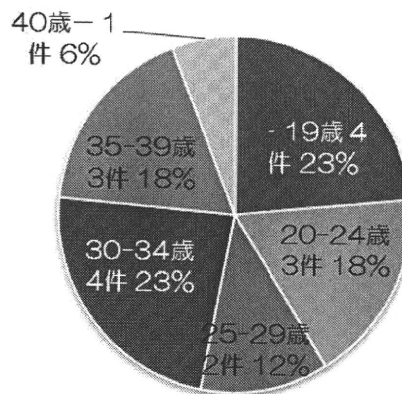
札幌市の出産年齢構成では、15～19歳が1%に対し、20歳未満の未受診妊婦は23%となっている。また、札幌市の20～24歳は11%に対し、未受診妊婦は18%、札幌市の25～29歳は29%に対し、未受診妊婦は25～29歳は12%で30歳未満が全体の53%と半数以上を占めていた。(図4、図5)

図4 札幌市出産年齢別



N=14,506

図5 未受診妊婦出産年齢別



N=17

※札幌市衛生年報 平成21年統計

③婚姻の有無について

婚姻に関して、未受診妊婦 17 件のうち、12 件（71%）が未婚であり、そのうち 8 件（67%）がパートナーなし、4 件（33%）がパートナーありであった。パートナーありのうち 2 件は出産後に入籍予定とのことであった。（図 6、表 1）

図 6 未受診妊婦の婚姻状況

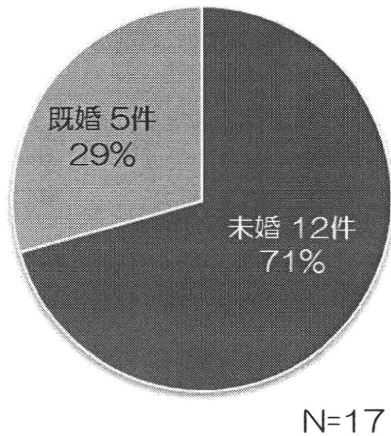


表 1 未受診妊婦未婚者の詳細

未婚妊婦のパートナーの有無	
パートナーなし	8件
パートナーあり	4件
計	12件

未婚者の年齢	
19歳以下	4件
20～24歳	3件
25～29歳	1件
30～34歳	1件
35～39歳	2件
40歳以上	1件
計	12件

④職業の有無について

未受診妊婦 17 件のうち、職業あり 6 件（35%）で、なし 9 件（53%）、不明 2 件（12%）と未受診妊婦の約半数が無職（学生含む）であり、有職者でも休職中やパート・バイトなどで今後の就労を継続するかどうか不明なものが 4 件あった。（図 7、表 2）

図 7 未受診妊婦職業の有無

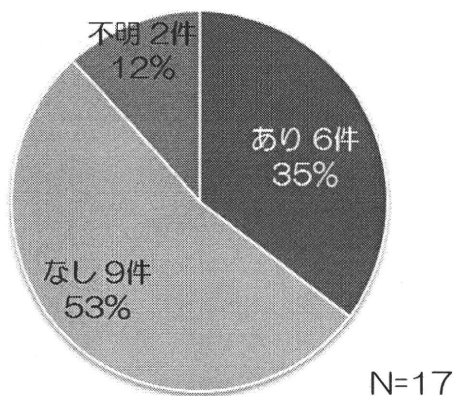


表 2 職業ありの詳細

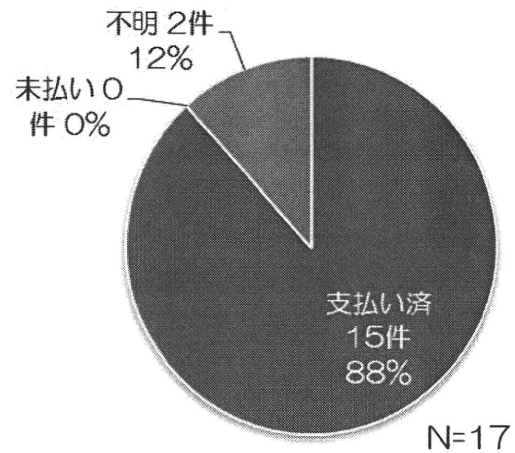
詳細	件数
パート	1件
バイト	2件
清掃業	1件
飲食店（休職中）	1件
不明	1件
合計	6件

⑤医療費の支払いについて

医療費は支払い済みが15件（88%）、医療費未払いが0件（0%）、不明が2件（12%）であった。（図8）

医療費の未払い0件は出産一時金直接支払制度の普及も影響していると考えられる。

図8 医療費の支払い



(2) 未受診妊婦分娩状況（対象：分娩後搬送及び受診後分娩となった15件）

①妊娠・出産の回数について

分娩の回数が0回（初産）は10件（67%）、1回経産が0件（0%）、2回経産が1件（7%）、3回経産が2件（12%）、4回経産が1件（7%）、5回経産が1件（7%）であった。（図10）

図9 札幌市経産回数別

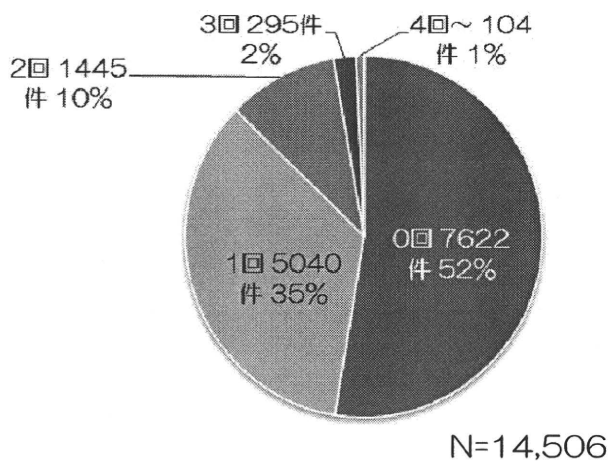
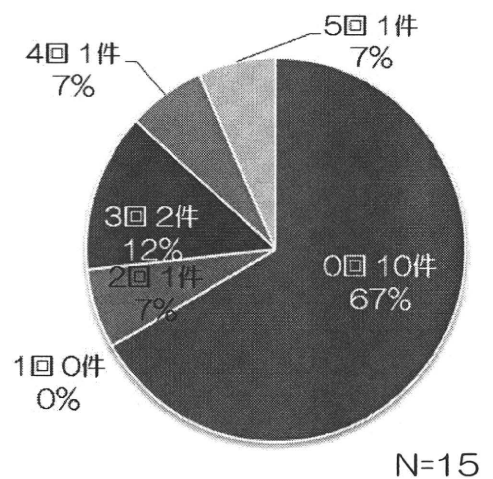


図10 未受診妊婦の経産回数別



※札幌市衛生年報 平成21年統計

②分娩場所について

搬送後、産婦人科の病院で分娩に至ったのは10件（67%）、産婦人科施設外での分娩は5件（33%）であった。施設外の分娩のうち、自宅分娩が3件、内科医院での分娩が1件、外出先（ネットカフェ）で分娩となり搬送されたが1件であった。未受診妊婦は病院を受診していないため、通常に比べ、分娩後に病院に搬送される割合が高い。（図11、図12）

図11 札幌市分娩場所別

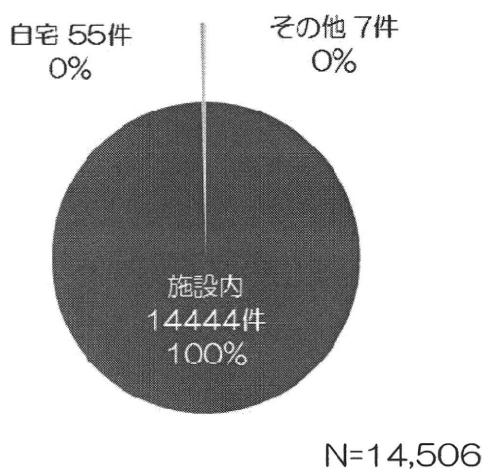
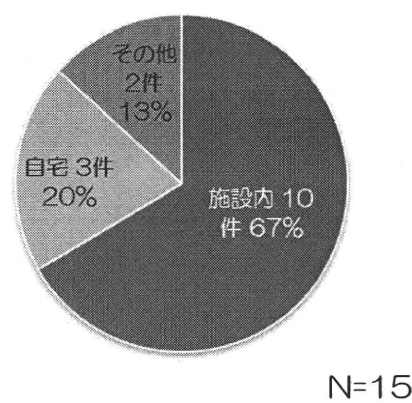


図12 未受診妊婦分娩場所別



※札幌市衛生年報 平成21年統計

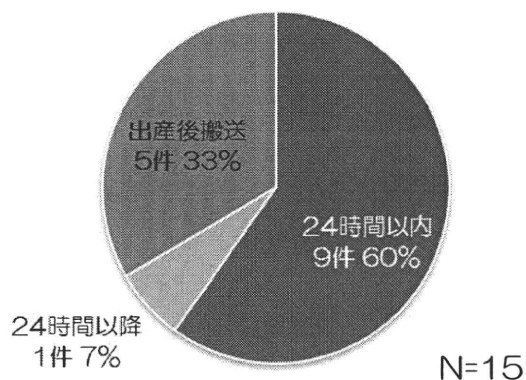
③搬送後から分娩まで

搬送後分娩に至った10件のうち、9件が24時間以内に分娩となり、1件が24時間以降に分娩となっていた。（図13）

また、24時間以内に分娩に至った9件のうち5件が入院後1時間以内に分娩となっており、2件は2時間以内、2件は3時間以内に分娩となっていた。

母児ともに緊急性があると同時に医療機関においても緊急かつハイリスク対応を強いられるうえ、感染症や合併症・既往歴も不明なため、精神・身体ともに医療者の負担は多大なものであると考えられる。

図13 入院から分娩に至るまでの時間



④母体の合併症について

母体合併症なし 12 件 (71%)、あり 5 件 (29%)、であった。(図 14、図 15)
合併症ありには顕性梅毒を合併していたため、新生児が先天梅毒となった例もみられた。
未受診は母子ともに妊娠前・妊娠中の健康状態が明らかでないため、その後の母子の健康回復や生命維持にも困難を極める要因の一つになると考えられる。

*札幌市内未受診(他にかかりつけ医あり)妊婦 2 名は除く

図 14 未受診妊婦合併症の有無

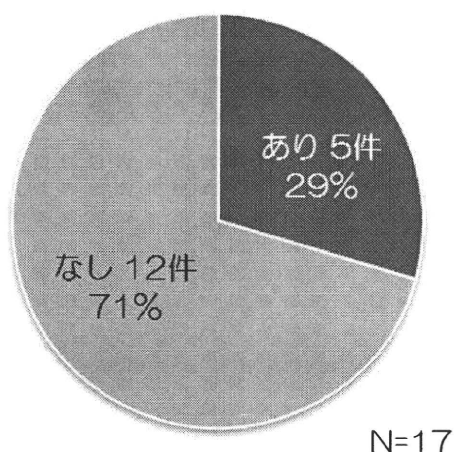


図 15 合併症の詳細

複数回答あり

貧血	2 件
喘息	1 件
顕性梅毒Ⅱ期	1 件
右卵巣の手術歴	1 件
重症 PIH	1 件
子宮頸癌、円錐切除術の既往	1 件
肺水腫	1 件
心不全	1 件
高血圧	1 件
糖尿病	1 件
血型 O (RH-) 不規則抗体陰性	1 件

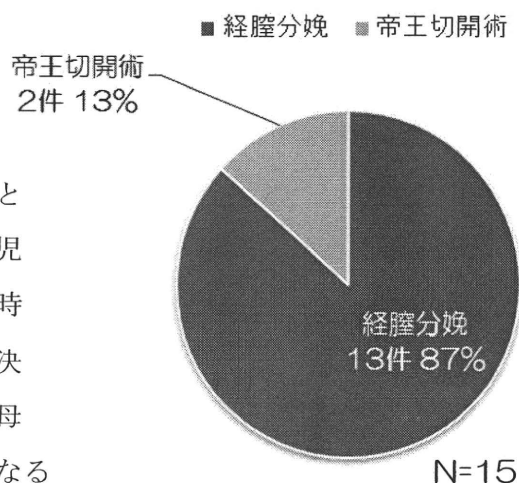
⑤分娩様式について

分娩様式は 13 件 (87%) が経膈分娩で、
2 件 (13%) が帝王切開娩出術であった。

(図 16)

帝王切開娩出術の適応は、母体の痙攣発作と胎児除脈が 1 件、母体の心不全・肺水腫と胎児機能不全が 1 件であった。分娩様式は、その時の母親の全身状態や既往、胎児の状態により決定する。未受診妊婦は妊娠経過が不明なため母体や胎児の経過等情報も不十分なまま分娩となることが多く、受診時にはすでに母児ともに生命危機に直結している場合もある。

図 16 分娩様式



⑥推定分娩週数について

分娩時の妊娠週数について札幌市全体で 93%が正期産（推定）での分娩となっており、不明を除外すると、早産とされている 37 週未満の分娩は全体の約 7%にあたる。それに比べ未受診妊婦の分娩時の推定分娩週数は正期産 11 件（79%）、37 週未満である早産 3 件（21%）、流産 1 件と札幌市全体の約 3.5 倍となっている。

図 17 札幌市分娩週数

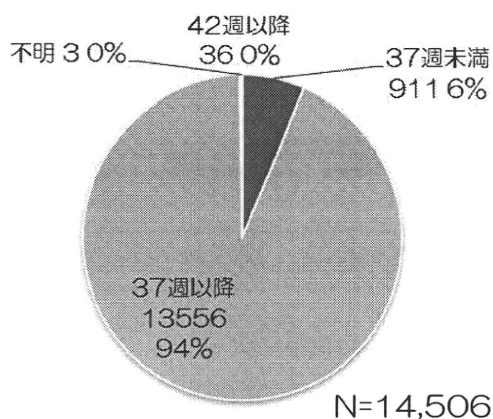
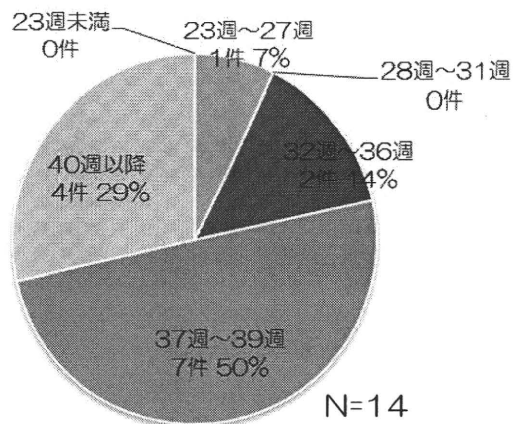


図 18 未受診妊婦の推定分娩週数



※札幌市衛生年報 平成 21 年統計

⑦分娩の異常について

未受診妊婦の分娩時の異常については、異常なし 7 件（46%）、あり 7 件（46%）、不明 1 件（8%）であった。（図 19）

異常ありの内訳は流産 1 件、早産 3 件、脳腫瘍合併妊娠疑い 1 件、吸引分娩 2 件、NRFS（胎児機能不全）1 件、心不全 1 件、肺水腫 1 件であった。（図 20）

脳腫瘍合併妊娠疑いの事例については、分娩後に脳腫瘍は否定され、重症 PIH と診断を受け、心不全・肺水腫合併妊婦は分娩後に気管内挿管され ICU にて呼吸器管理が行われた。

定期的に健診を受けていた妊産婦であっても分娩異常が一つでもあれば母児には大きなリスクとなるが、情報の少ない未受診妊婦においてはその何倍ものハイリスク状態にあると考えられる。

図 19 分娩異常の有無

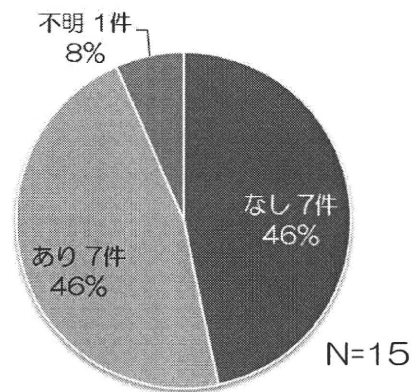
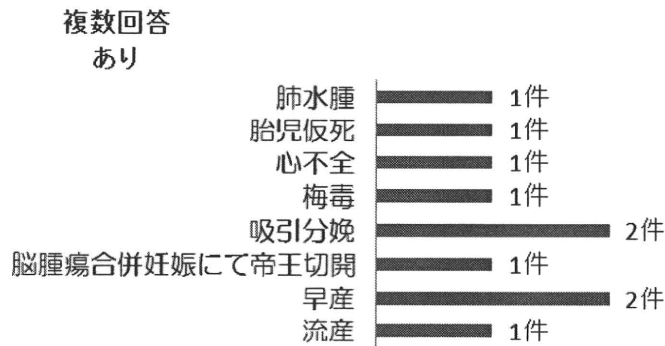


図 20 分娩異常ありの詳細

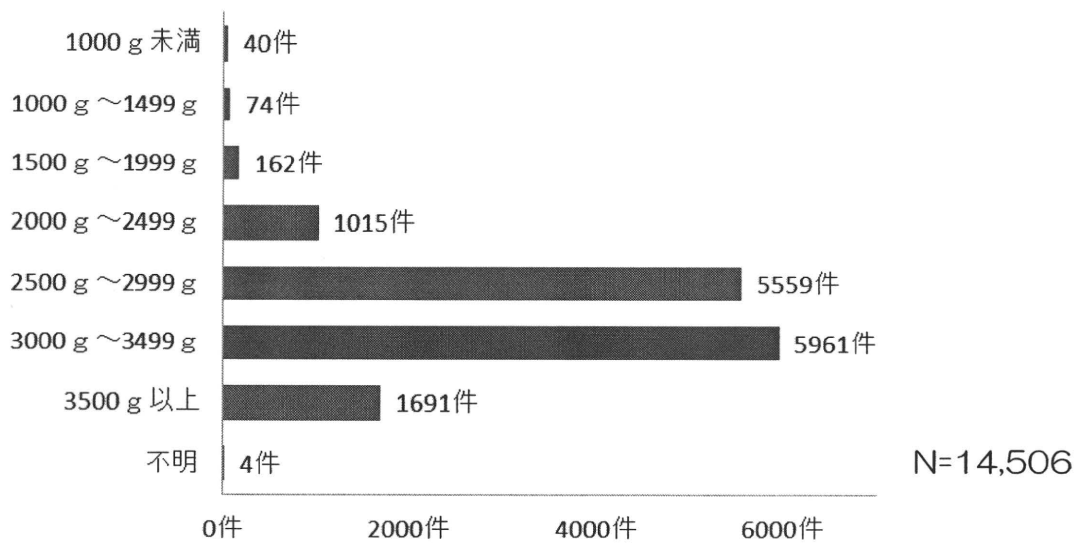


⑧児の出生体重について

新生児の出生体重については低出生体重児とされる 2500 g 未満が札幌市では 9% に対し、未受診妊婦は 16% であった。未受診妊婦は通常よりも低出生体重児が多いといわれている。内訳は 1000g 未満 0 件、1000 g ～1499 g 1 件、1500～1999 g 1 件、2500～2999 g 7 件、3000～3499 g 5 件である。(図 2 1、図 2 2)

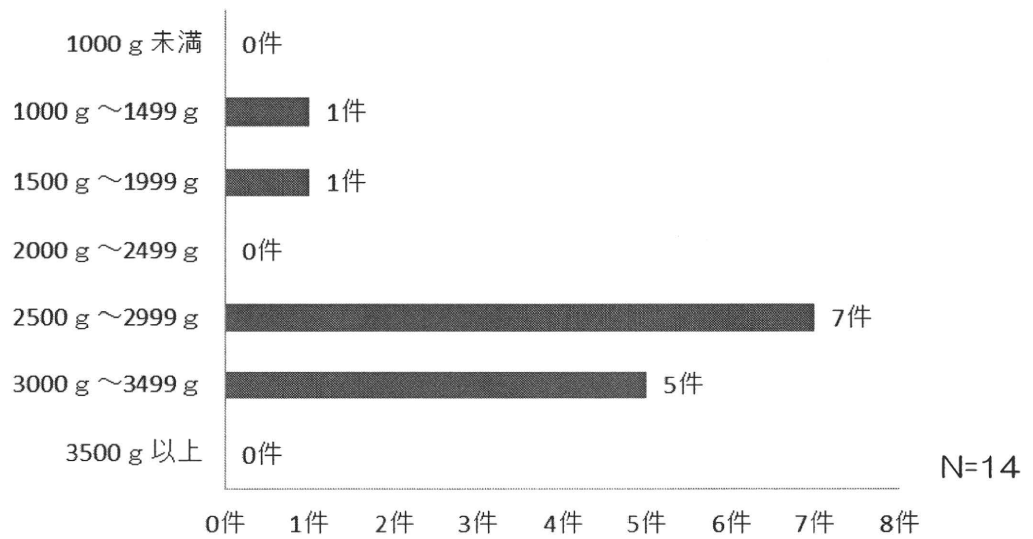
* 流産 1 件は除き、死産 1 件は含む

図 21 札幌市の出生体重別



※札幌市衛生年報 平成 21 年統計

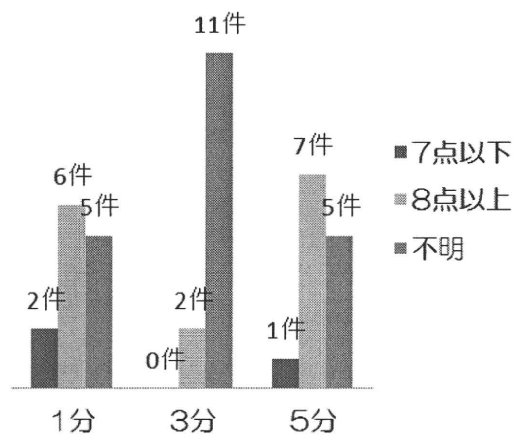
図 22 未受診妊婦の出生体重別



⑨ アプガースコアについて

新生児のアプガースコアについては、1分後 7点以下 2件、8点以上 6件、不明 5件、3分後 7点以下 0件、8点以上 2件、不明 11件、5分後 7点以下 1件、8点以上 7件、不明 5件であった。(図 23) アプガースコアは 1分後、5分後で確認している施設が多く、3分後については不明が多かった。施設外分娩はすべて不明である。

図 23 アプガースコア

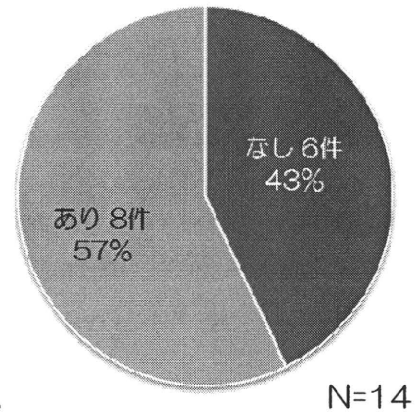


⑩新生児の異常について

新生児の異常については、異常なし6件(43%)、異常あり8件(57%)であった。(図24)

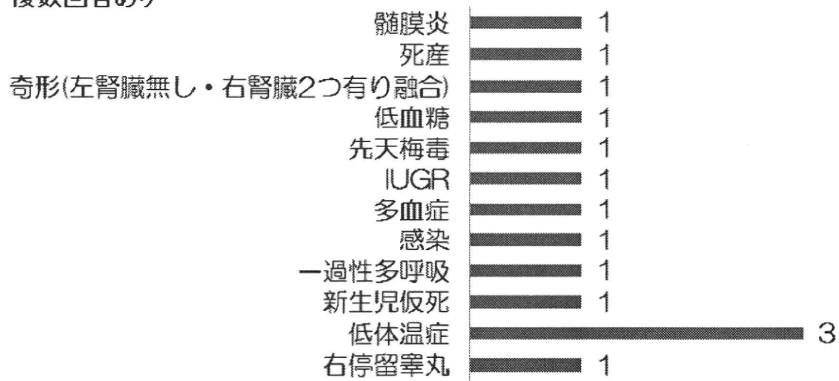
異常ありの内訳は低体温症3件、新生児仮死1件、一過性多呼吸1件、右停留睪丸1件、感染1件、多血症1件、IUGR1件、先天梅毒1件、低血糖1件、奇形(左腎臓無し・右腎臓2つ有融合)、髄膜炎1件、死産1件(重複回答あり)であった。

図24 新生児の異常の有無



複数回答あり

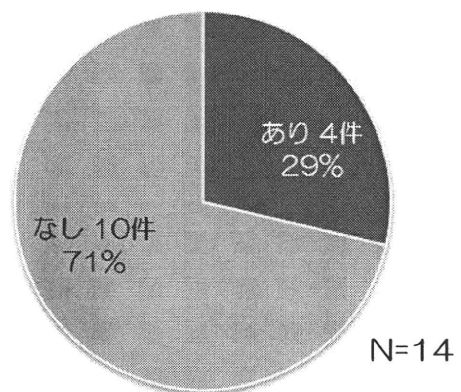
図25 新生児の異常の詳細



⑪NICU入院の有無

NICU入院については、なし10件、あり4件であった。NICU入院なしのケースには死産の例が1件含まれている

図26 NICU入院の有無

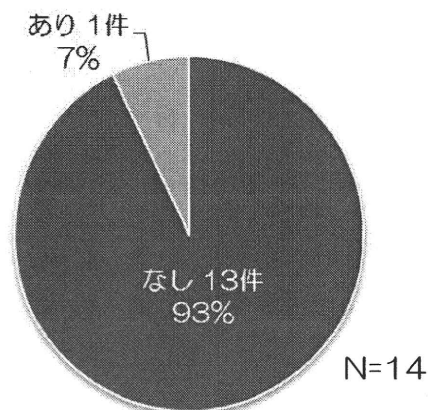


⑫児の気管内挿管の有無

児が気管内挿管をしたかどうかについては、なし13件、あり1件であった。

気管内挿管なしのケースには、死産の例が1件含まれている。

図 27 気管内挿管の有無



⑬一カ月健診の受診について

1ヶ月健診の受診については母本人があり10件(72%)、なし2件(14%)、予約済み2件(14%)、新生児についてはあり10件(76%)、なし1件(8%)、入院中1件(8%)、不明1件(8%)であった。

図 28 1ヶ月検診受診の有無 (本人)

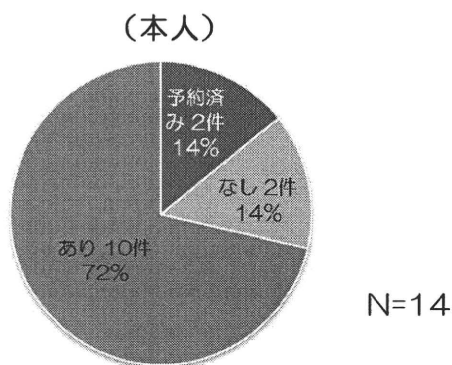
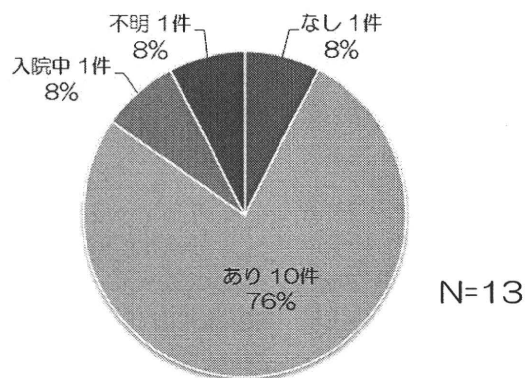


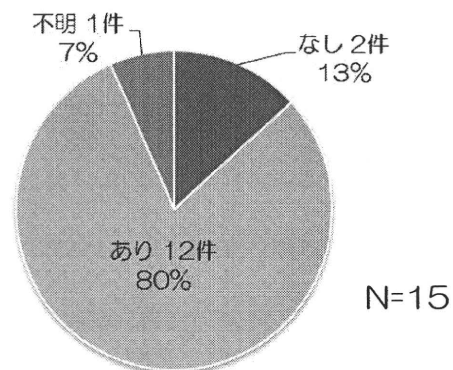
図 29 1ヶ月検診受診の有無 (新生児)



⑭フォローアップの有無

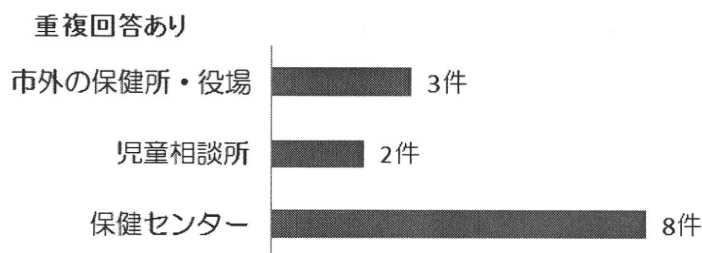
退院後地域等へのフォローアップを依頼したかどうかについては、あり12件(80%)、なし2件(13%)、不明1件(7%)であった。なしの中には複雑な事情を抱えているため希望しないとの回答もあった。また、不明については、受け入れ後、転院し出産

図 30 退院後のフォローアップ



は他院でしたため不明とのことであった。(図30、図31)

図31 フォローアップ機関の詳細



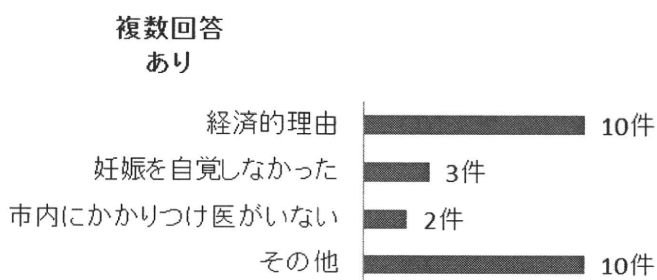
⑮未受診の理由について (医療機関調査)

未受診の理由については経済的理由10件で、その詳細は以下である(重複回答)。

- ・未婚の妊娠 7件
- ・夫婦が無職 2件
- ・お金が無かった 1件

経済的理由以外の理由として、妊娠を自覚しなかった3件、市内にかかりつけ医がない2件、その他10件であった。(図32)

図32 未受診の理由 (医療機関調査)



未受診その他の理由の詳細を下記に示す(他の理由と重複あり)。

- ・保健未加入、両親・兄とは絶縁状態で開いては17歳で来院できない。妊婦健診が無料になることを知らなかった。
- ・中絶予定であったが放置していた。
- ・妊娠発覚後、居住していた大阪の病院で受診拒否された。
- ・妊娠した時にどうすべきかの知識がない。
- ・本人は妊娠の自覚がなく、胎動を感じたかを確認したが、胎動という言葉もわか

らないようであった。

- ・両親に相談出来なかったため。
- ・親に言うとは中絶を勧められるため言えなかった。
- ・もともと月経不順なため、妊娠してないと思っていた。

4 未受診妊婦に関する詳細分析結果（保健センターへのヒアリング）

(1) 保健センターへのヒアリング概要

近年の少子化・核家族化、地域連帯感の希薄化、女性の社会進出、育児情報の氾濫など、親子を取り巻く環境が著しく変化する中で、育児不安や児童虐待などの社会問題化している。札幌市においては少子化傾向が著しく、年々出生率が低下しているにも関わらず、虐待が増えているという現状がある。特に精神疾患を有する妊婦、未熟児やその他養育支援を必要とするハイリスク児などは、養育者の負担や不安が強く、虐待を引き起こすリスクが高いことから、これらの情報を早期に把握し速やかに支援していく必要がある。そのため、本市においては未熟児出生や虐待ハイリスクなど育児支援が必要な親子について、ハイリスク母子として保健センターと医療機関が情報を共有し、保健と医療の面から継続的に育児支援をするケアシステムとして育児支援ネットワーク事業があり、地域の保健師、助産師が支援を行っている。

今回対象となった未受診妊婦は背景も様々であり、7割以上がハイリスク母子として支援を要すると医療機関からの回答があり、育児支援ネットワーク事業の連携が図られていた。医療機関へのヒアリング調査結果をもとに札幌市の各保健センターへ連携が図られた対象についてのヒアリング調査を実施した。

(2) ヒアリング結果

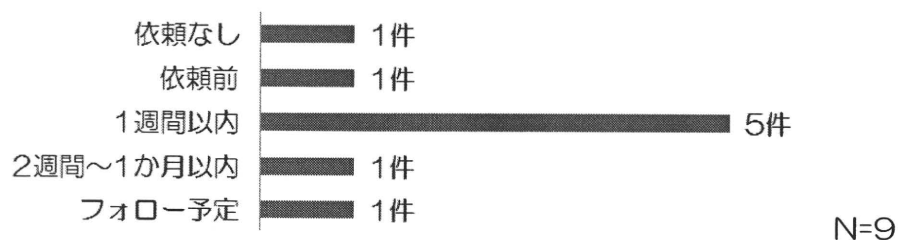
① 医療機関から依頼されてから対象へアプローチするまでの期間

1週間以内5件、2週間～1ヶ月以内1件、医療機関からの依頼前1件、医療機関からの依頼なし1件、フォロー予定1件であった。（図33）

医療機関からの依頼があつてからのフォローはもちろんだが、未受診妊婦に関してはほとんどが出産後に母子健康手帳交付となり、必ず保健センターへ来所する。保健センターではそのような機会も逃さずにフォローのためのアプローチを行っているため、医療機関からの依頼前に対象者へアプローチしたり、医療機関へ問い合わせたりする事例があつた。また、未受診を繰り返したり、上の子の養育に問題があり継続フォローして

いるケース等に関しては常日頃から密にアプローチを行い、未受診防止のための支援も欠かしてはいない。

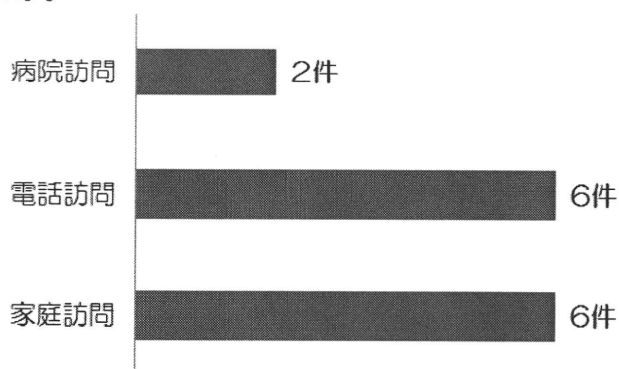
図 33 医療機関の依頼があってからアプローチするまでの期間



②フォローの方法について

フォローできた対象のうち家庭訪問 6 件、電話訪問 6 件、病院訪問 2 件であった。(図 3 4)

図 34 フォロー方法
複数回答あり



③フォロー対象者へのフォロー回数

フォロー回数については訪問予定 2 件、2 回 1 件、3 回 2 件、4 回 1 件、5 回 1 件、7 回 1 件、10 回 1 件であった。(図 3 5)

図 35 フォロー回数

